

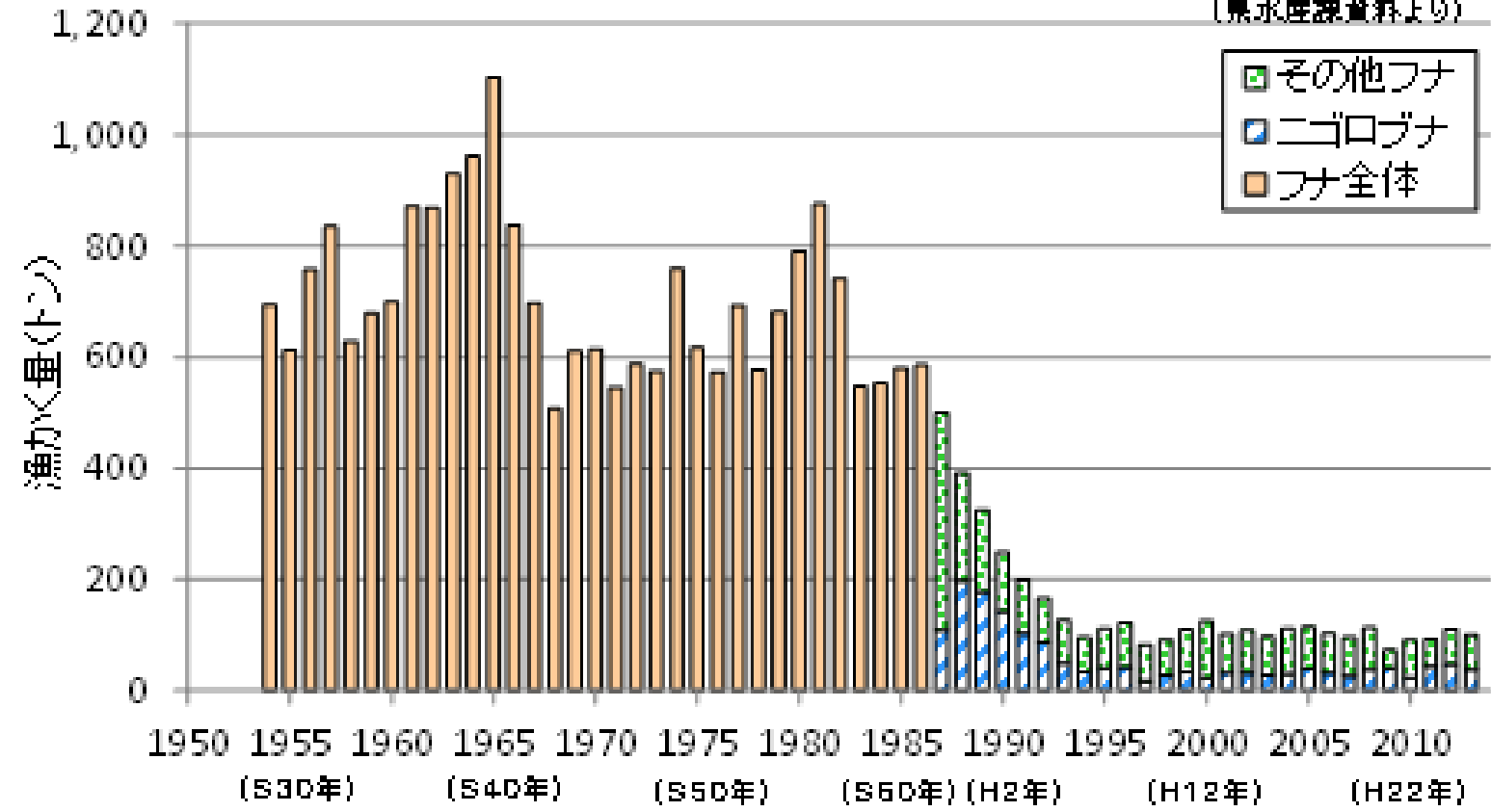


「ヨシ」ってなんだろう？

びわ湖フローティングスクール
資料提供：滋賀県農政水産部水産課

フナ・ニゴロブナの漁かく量の変化

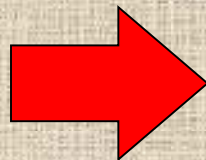
(県水産課資料より)



- ニゴロブナ漁かく量は、昭和63年には198トンあったが、平成9年には18トンまで減少した。



魚がたまごを産んで育つ場所がへった



うめたてでヨシがなくなつた！

フナやコイの仲間は、
びわ湖の岸边や内湖（ないこ）に生える
ヨシ帯で生まれて、大きくなる。



ゴミでヨシがかれた！

在来魚が産らんするヨシ帯がへった。

昭和28年
260ヘクタール



平成15年
68ヘクタール



“ヨシ”の役割をまとめよう

○魚・鳥のすみかになる

- ・多くの魚が卵を産み、卵からかえった小魚はヨシをえさ場やかくれ家として育ちます。

○水をきれいにする

＝生き物がすみやすい水にする

- ・水中の養分を吸い取る。
- ・水中の茎(くき)につく微生物によって水のごみを分解(ぶんかい)する。



現在、ヨシ帯は**昔にくらべてへっています**。

1992年には「滋賀県琵琶湖のヨシ群落(ぐんらく)の保全(ほぜん)に関する条例」というものができ、**ヨシの減少を止めようとしています**。

“ヨシ”はいろいろな**生活道具に活用**されています。**「紙」「よしず」「やね」**などの材料に活用されています。

“ヨシ”がびわ湖にとって大切な植物だと知ったみなさんは、これから、ほんの少しでいいので、**ヨシを守り、育て、活用できるような取り組み**に参加してほしいなと思います。